

建設現場における遠隔臨場

手引書

《受注者用》

令和8年3月

## 1 はじめに

本手引書は、「建設現場における遠隔臨場に関する試行要領」に基づき、遠隔臨場を円滑に実施するための簡易マニュアルです。

動画撮影用カメラ（スマートフォンやウェアラブルカメラ、タブレット等のモバイル端末等）を活用し、受発注者間の業務効率化を図ることで、働き方改革への積極的な取り組みをお願いします。

## 2 遠隔臨場の機器等構成

遠隔臨場で使用する機器等は、主に以下のとおりです。実際に使用する機器等については、工事監督課と協議のうえ、決定してください。

### 【受注者】

動画撮影用カメラ（スマートフォンやウェアラブルカメラ、タブレット等）

### 【双方向通信】

Web 会議システム、クラウドサービス等

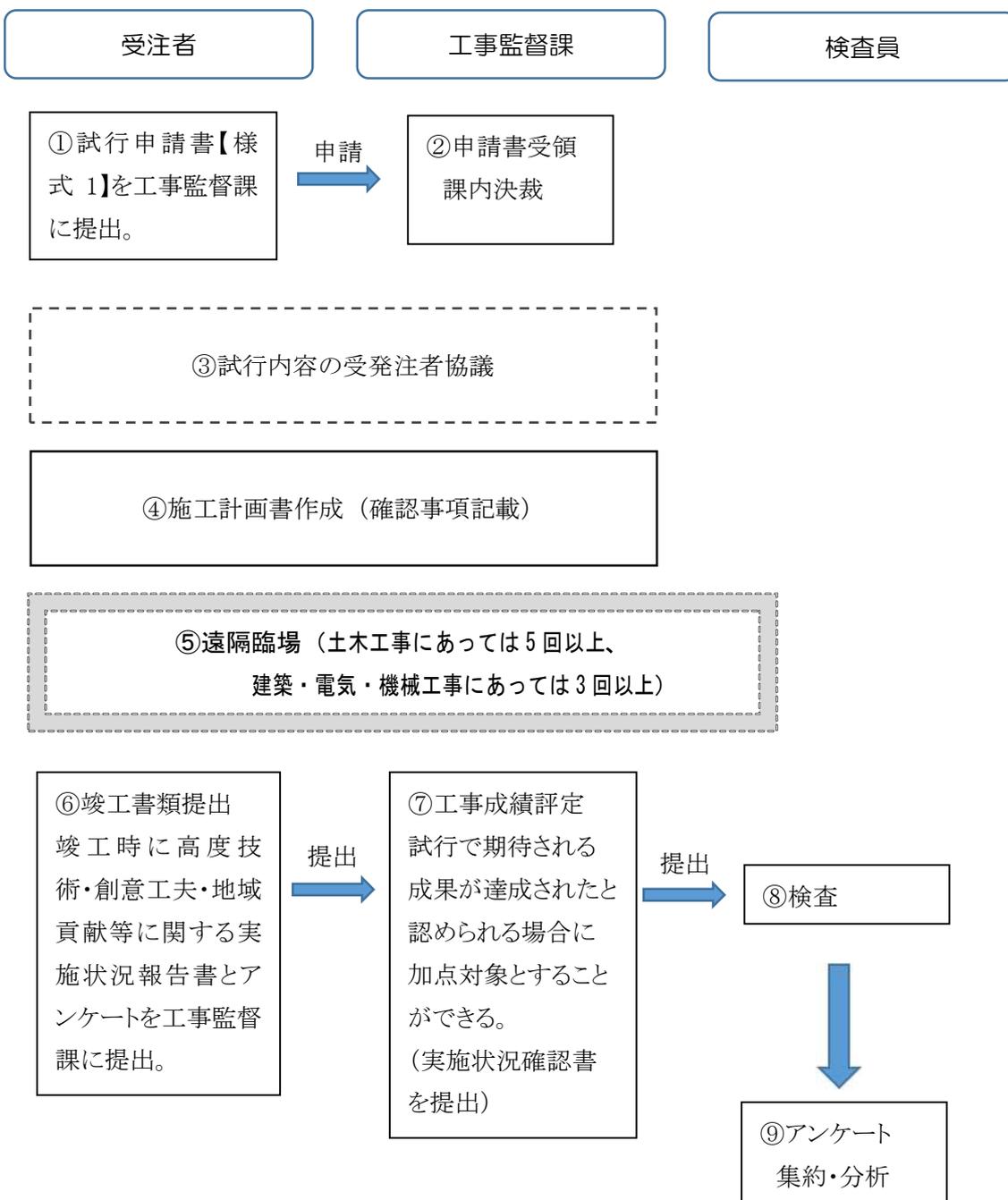
### 【工事監督課】

PC やタブレット、スマートフォン等（以下、「PC 等」といいます）



機器等構成（例）

### 3 試行の作業手順



#### 4 撮影の実施

##### (1) 機器の動作確認

①受注者は、試行の実施にあたり、事前に監督員と双方向通信の状況について確認を行ってください（通信試験を数回行うこと）。

##### (2) 現場の確認

①受注者は、通常の監督員立会時と同様に、黒板に必要な情報を記入し準備してください。

②受注者は、試行の準備が整ったら監督員に電話連絡をしてください。

③監督員は、課所有の PC 等を用いて、双方向通信を開始します。

（受発注者間で決めた方法で行う）

④受注者は、必要な情報を読み上げ、監督員による実施内容の確認を得てください。

⑤受注者は、監督員の確認が得られたら動画撮影用カメラや PC 等にて遠隔臨場の映像(実施状況)をスクリーンショットで画像として保存してください。

※画像は監督員が確認(OK サイン等)をした写真を差し込むことを想定していますが、その他、客観的に監督員が確認したことが証明できるものであれば可とする。  
(通信相手が監督員であることが分かる表示など)

⑥受注者は、通信終了後、すみやかに保存画像の映り具合等を確認してください。  
映り具合等がよくない場合は、再度、監督員に連絡し撮影を行ってください。

#### 5 実施回数

監督員は、段階確認や立会等は臨場により確認するが基本となっています。

そのため、実施回数については、すべて遠隔臨場とならないよう、監督員と協議を行ってください。

また、機器の操作に慣れないという場合は、受注者の本社等と現場間で練習するようにしてください。

## ★★★ 実践編 ★★★

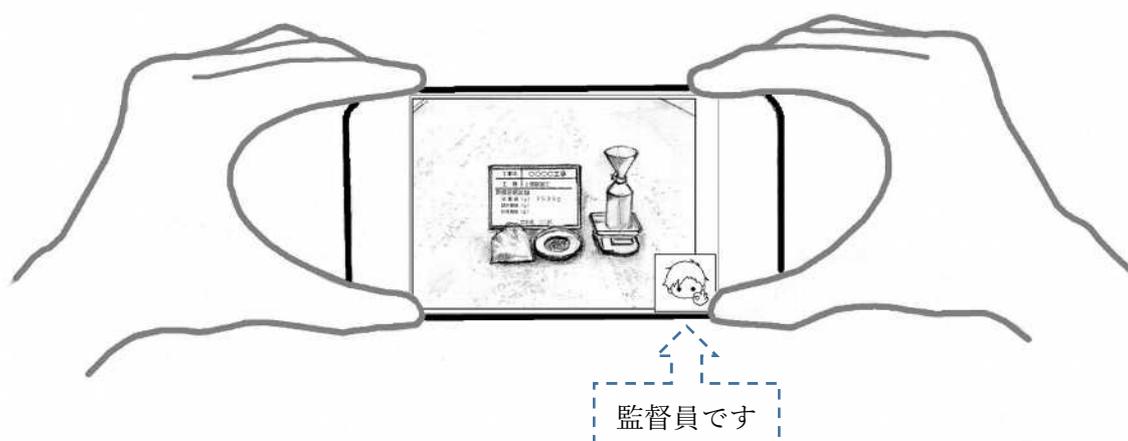
### 【双方向通信】

双方向通信については、Web 会議システムやクラウドサービス等々がありますので、受注者と監督員で協議のうえ、双方向通信方法を決めてください。

### 【撮 影】※ 例としてスマートフォンでの撮影方法について説明します。

①撮影時は、スマートフォンを横向きにして撮影しましょう。

縦向きで撮影した場合、画像は縦長で保存され、写真帳に収まりにくくなります。



②スクリーンショットを撮影する方法

※詳しくはインターネットで検索してください。

#### ●Android スマートフォンの場合

(方法1)

「電源キー」と「音量 DOWN キー」を同時に長押しする。同時押しで上手く撮れない場合は、「電源キー」を押しながら「音量 DOWN キー」を押す。

(方法2)

「電源キー」を長押し (約1秒)するとメニューが表示されるので「スクリーンショット (画面の保存)」をタッチする。

#### ★Android の指一本でスクリーンショット撮影便利アプリ★

「スクリーンショットイージー」を使用すると画面のタップのみでスクリーンショットが可能となります。

(一例ですので、活用しやすいものをご活用ください。)

## ●iPhone の場合

(ホームボタンのある iPhone の場合)

本体上部または側面にある「スリープ/スリープ解除ボタン」と「ホームボタン」を同時に押す。同時押しで上手く撮れない場合は、「サイドボタン」を押しながら、「ボリューム(アップ)ボタン」を押す。

(ホームボタンのない iPhone の場合)

本体側面にある「サイドボタン」と「ボリューム(アップ)ボタン」を同時に押す。同時押しで上手く撮れない場合は、「サイドボタン」を押しながら、「ボリューム(アップ)ボタン」を押す。

### ★iPhone の指一本でスクリーンショット撮影便利技★

「Assistive Touch」でスクリーンショットを設定する。

(詳しくはネットで検索してください)

## 【保存した画像を確認する】

※詳しくはインターネットで「スクリーンショット 保存先 ”機種名”」で検索してください。

### ●Android スマートフォンの場合

撮影したスクリーンショットは、スマートフォン本体 (内部ストレージ) に保存され、写真アプリで確認することができます。

写真アプリについては、多くの Android スマートフォンにプリインストールされている「フォト」アプリ (右のアイコン) がおすすめです。



### ●iPhone の場合

撮影したスクリーンショットは、iPhone 標準の「写真」アプリ (右のアイコン) に保存され、「写真」アプリ内の「スクリーンショット」フォルダ内で確認することができます。



## 【画像をパソコンに取り込む】

※詳しくはインターネットで検索してください。保存方法は以下の他に複数あります。

### ●Androidスマートフォンの場合

スマートフォンとパソコンをUSBケーブルで接続します。

画像が格納されているのは、スマートフォンの内部内「Screenshots」フォルダです。

パソコン上に適当なフォルダを作成して、「Screenshots」フォルダを開き、パソコンに保存したい画像を選択し、コピー（ドラッグ&ドロップ）します。

パソコンへの画像保存が終わったら、スマートフォンを安全に取り外します。

### ●iPhoneの場合

iPhoneのロック画面を解除した状態で、パソコンをライトニングケーブル（充電で使うケーブル）で接続します。

パソコンにiPhoneを接続すると、iPhoneの画面に「このデバイスに写真やビデオへのアクセスを許可しますか？」という表示が現れますので、許可をタップします。

パソコンのエクスプローラーから「Apple iPhone」を開きます。

ダブルクリックしていき「DCIM」フォルダを開き、パソコンに保存したい画像を選択し、コピー（ドラッグ&ドロップ）します。

パソコンへの画像保存が終わったら、iPhoneを安全に取り外します。

## 【写真帳に整理する】

スクリーンショットの画像を写真帳に整理します（7ページにイメージ図）。

## 【会話中に気を付けること】

### ①あいづちやうなずきなどで「聞いていますよ」と示す

「無表情のまま動かない」は、発言している側からすると、聞いてもらえているのかどうかよくわかりません。「普段よりも少し大げさ」を意識して、画面上の自分の顔を見ながら、表情や動きをつけてみてください。

### ②一人でしゃべり続けない

ネット経由の場合は、対面で会話する場合よりも口を挟みにくいので、相手が発言しにくくなります。簡潔に話すよう心がけましょう。

### ③人の発言に自分の発言をかぶせない

対面で会話する場合も同じですが、ネット経由では自分が発言してから相手に伝わるまでに若干タイムラグがあるので、言葉がかぶりやすくなります。

ですから、対面の時よりも長めに間をとって話し出したほうがいいです。

誰かと同時に話し始めてしまった時は、譲り合うことも大切です。

### ④逆光に気を付ける

「逆光」は相手が会話しにくくなるので気をつけましょう。受注者と話すとき、逆光になって現場の様子がわからない等の場合はその旨を伝えましょう。

### ⑤「自分がしゃべるとき以外はミュート」が基本

双方向通信にミュート機能がある場合は、「自分がしゃべるとき以外はミュート」を心がけましょう。ミュートすることで、周囲の音が相手に聞こえなくなります。



## あると便利なもの

- ・イヤホンマイク

騒々しい屋外では、Bluetooth イヤホンマイクや骨伝導イヤホンを使うと監督員との会話が良く聞き取れます。

- ・アノテーション機能

要確認箇所等の指示を視覚的に行うことができるアノテーション機能（ポインタ機能）がある双方向通信手段を用いることで、受発注者間の意思疎通がスムーズになります。

- ・各種補正機能がある動画撮影用カメラ

水平維持機能や手ブレ補正機能があるカメラもあります。狭い箇所を撮影する必要がある場合等に有効です。

- ・高解像度の動画撮影用カメラ

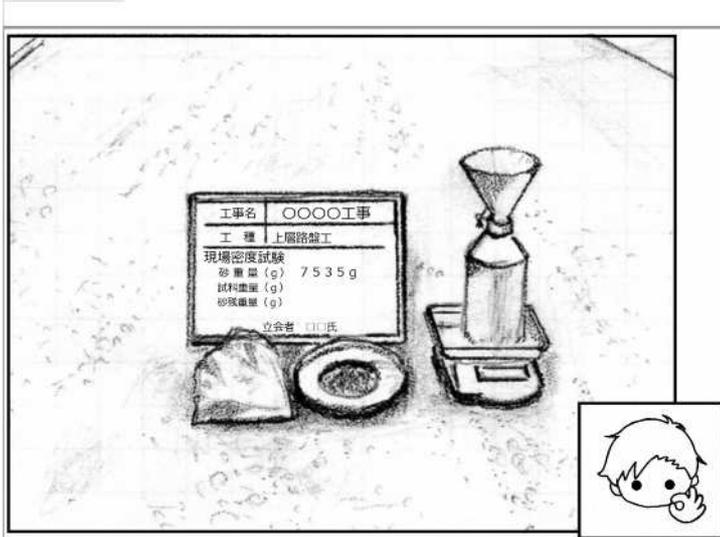
高解像度機能や明所・暗所における自動調整機能を備えたカメラもあります。鮮明に対象物を映し出すことや、暗所等での撮影に有効です。

- ・テクノロジーマップの活用

デジタル庁が作成、公開している「テクノロジーマップ」には、上記機能に加え、遠隔臨場に有効活用できる技術が掲載されています(下記 URL よりアクセスできます)。

URL : <https://www.regtech.digital.go.jp/>

～ 写真帳 イメージ ～



段階確認○○

現場密度試験

上層路盤工

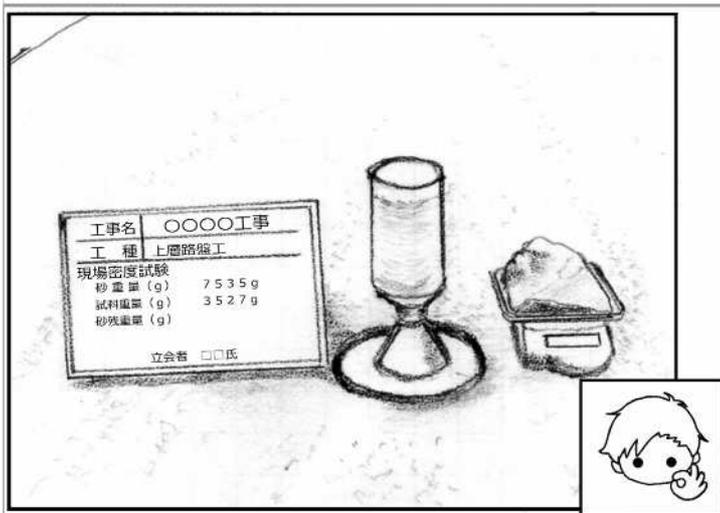
A路線

No. ○△

砂重量 7537 g

立会者 □□氏

R2.◇◇◇◇



段階確認○○

現場密度試験

上層路盤工

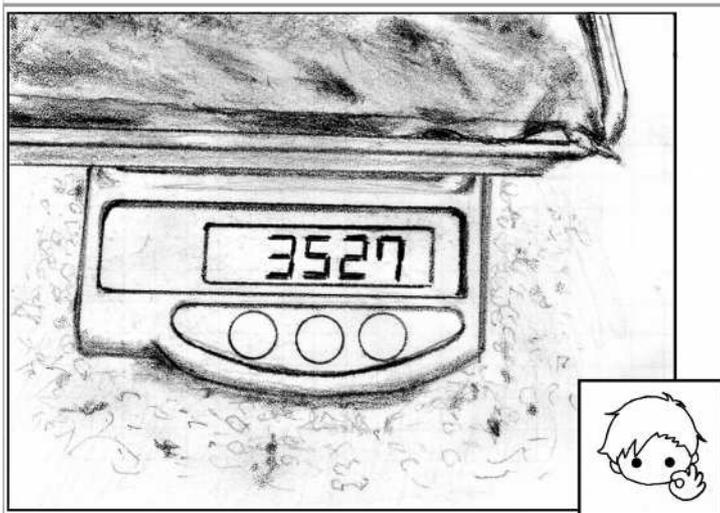
A路線

No. ○△

試料重量 3527 g

立会者 □□氏

R2.◇◇◇◇



段階確認○○

現場密度試験

上層路盤工

A路線

No. ○△

試料重量 3527 g

立会者 □□氏

R2.◇◇◇◇

※画像は監督員が確認(OKサイン等)をした写真を差し込むことを想定していますが、その他、客観的に監督員が確認したことが証明できるものであれば可とする。(通信相手が監督員であることが分かる表示など)